

講義名	海外ホスピタリティ研修			授業形態	
担当教員	瀧田 実	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限 / 前期 水曜日 4時限		
		単位数	4	履修開始年次	2年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

「ホスピタリティとは何か」を実践的に学びたい学生に最適な科目である。今年度は、研修先をシンガポールとし、海外ホスピタリティ研修を実施する。事前に「ホスピタリティとサービスの概念比較」、ホスピタリティ産業においてどのようなホスピタリティが発揮されているのか、また海外研修が必要となる旅行英会話などを学び、現地での調査・分析活動をサポートする。ホスピタリティマインドの重要性や日本と海外との違いについて現地研修を通して体験する。帰国後に海外研修で調査・学修した「海外におけるホスピタリティへの取組み」について発表する機会を設ける。

到達目標

ホスピタリティとサービスの概念の違いについて明確に説明できるようになる。
ホスピタリティを発揮している外地の活動を調査し、日本と海外のホスピタリティマインドの共通点、相違点を述べることができるようになる。
海外研修を通して発展した現地の歴史・文化・観光振興について述べることができるようになる。
海外研修を通じて、コミュニケーション力（傾聴力・発信力）や協調性を身に付けることができるようになる。

提出課題

授業にて、随時小レポートの提出を求める。
研修旅行中の活動レポートを毎日提出する。
授業の集大成として「海外におけるホスピタリティへの取組み」について調査結果をまとめ、レポート提出とグループ発表を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業で課す小レポートについては、次回授業の冒頭で出題意図と要点を解説し、前回の内容を復習する。また、優れたレポートを紹介するとともに、学生からの質問や意見についても解説を行い全体で共有する。

評価の基準

平常点	50%
(小レポートと授業への参加姿勢)	
研修旅行中の活動レポート	20%
研修調査レポートと発表	30%

履修にあたっての注意・助言他

この授業は、海外研修に参加することが必須要件となる。
少人数かつグループディスカッションが多い授業となるので遅刻・欠席は厳禁とする。
海外旅行に際して、パスポート取得と健康診断の受診・予防接種等の実施確認が必須である。
海外旅行に際して、大学が指定する旅行傷害保険への加入が必須となる。
原則として水曜日・4限の連続授業とするが、授業の特性から変更した授業日の設定があるので注意すること。
海外研修の開始は、9月初旬とする。
海外研修での安全確保の徹底のため、規律性・団体行動に不備と教員が判断した場合、当該学生の履修を中止することがある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

必要箇所をプリント資料として配布、パワーポイントを使用して授業を進行する。
参考文献は、適宜講義内に紹介する。

授業計画

- ガイダンス
- 現地基本情報と研修旅行手続説明(1)
- 海外旅行のポイントと旅行心得・マナー
- 観光業界におけるホスピタリティ
- 旅行英会話(1)
- IR・統合型リゾートの研究
- 旅行英会話(2)
- チーム作り(規律性と協調性)
- 現地詳細情報と研修旅行手続説明(2)
- 事前研修(調査項目の作成1)
- 事前研修(調査項目の作成2)
- 海外研修出発前日の確認
- 海外ホスピタリティ研修 1日目
- 同上
- 海外ホスピタリティ研修 2日目
- 同上
- 海外ホスピタリティ研修 3日目
- 同上
- 海外ホスピタリティ研修 4日目
- 同上
- 海外ホスピタリティ研修 5日目
- 同上
- 海外ホスピタリティ研修 6日目
- 研修研修のレポート作成(1)
- 研修研修のレポート作成(2)
- グループ発表(1)
- グループ発表(2) まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

海外研修に向けて、以下のことを予習復習として学修する。（授業前後4時間）
パスポートの申請・取得方法
海外渡航の手続き
海外における旅行マナー
選航先の気候風土・国情・文化・慣習・現地情報
選航先が展開する観光誘致策と観光データの収集
比較対象となる日本のホスピタリティ産業の状況
海外現地で調査する事項をあらかじめ準備する

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標を達成することで共通記に貢献できる。
当該科目は「ホスピタリティとは何か」を実践的に学びたい学生向けである。事前の基礎学習でホスピタリティの概念を学び、その発揮が生み出す付加価値や効果を予測分析し、実際の海外見聞を通して観光業界の接遇を考察する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業に関する感想、質問、意見や課題レポートの提出手法としてリッカード（Respon）を使用。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
航空会社での勤務経験（本社部門、空港部門、海外駐在）を活かして、観光業界や海外生活での様々なエピソードを交えながらホスピタリティの重要性や英会話力の必要性を伝え、あわせて学生のグローバル感覚醸成を図る。

備考

原則として、水曜日3・4限の連続授業とするが、授業の特性から、変更して授業日が設定されることに注意すること。